

「目に見えない当たり前の幸せ」 曾我 綸
「バチンと音がして、急に電気が切れ、部屋の中が真っ暗になった。周りが一瞬静かになり私は、びくっ」と身をすくめた。となりにいる母の顔も見えない。だんぼうも切れて、だんだん寒くなってきた―これは、家族で防災くん練に参加した時に、災害でライフラインがしゃだんされるとどうなるのかを体験した時の様子だ。自分が思っていた以上に暗い。考えてみると、都会に住んでいる私が今までけい験したことのない闇だ。くん練だと分かっているのにパニックになった。真っ暗な世界がこんなにも不安でこわいものだとは思わなかった。ほんの数十分間の暗闇がとも長く感じられた。体験が終わって、ぱっと明かりがついた時、心の底からほっとした。家族の顔を見ただけで幸せだと感じた。

私は、今まで電気について考えたことがなかった。スイッチを押せば明かりがつくし、コンセントにさせばかん単に物がつかえる。

それが当たり前だと思っていたことさえ気付いていなかった。私の中で電気は空気みたいなものさかいで使えなくなるという意味しきも全くなかった。この体験で私は、電気のことを調べてみることにした。すると、電気はたくわえておくことができないと分かった。だから夏になるとテレビで節電をよびかけているんだなと思った。また、電気をつくる方法も火力発電、水力発電、風力発電以外にも太陽光発電をはじめ、海洋エネルギーを利用した

発電や水素エネルギーを使ったものなど色々あることが分かった。調べてみると知らないことがどんどんできて面白かった。私は、理科の科目が一番好きだ。これからもっと電気のことを勉強して、電気をたくわえられる方法を考えたり、社会をささえるエネルギーの研究もしてみたい。ふだんから、コンセントをまめにぬいたり、エアコンの温度設定にも気を配って節電に取り組みたい。目に見えない電気を私は大切にしていきたいと思う。